

ケアポート板橋 特養 5階

症例概要 利用者:80代前半 男性 要介護度3

病名:脳梗塞後遺症による右麻痺、高血圧、左延髄拘束、鼠経ヘルニア、胆石手術、高脂血症

利用サービス:ケアポート板橋特養5階(入所 平成31年1月初旬 退所 令和2年9月中旬ご逝去)

経過:R2年8月初旬より発熱見られ、その4日後に肺炎の診断で入院。経口摂取困難との診断により、IVHにて栄養を補っていた。本人希望により胃瘻造設は行わず、酸素吸入、吸引常時必要との事もあり療養型病院への転院を勧められたが、ご本人及びご家族の強い希望もあり、看取り前提での帰苑。医師、看護、相談員、ケアマネ、介護主任、栄養、介護で連携し最後までご本人の意思を尊重した看取りケアを行い、退所後にご家族より感謝の言葉を頂いた事例

内 容

入所時より脳梗塞後遺症による構音障害や痰絡みは見られましたが、ご自身で意思決定し、職員の介助を受けながら自立した日常生活を送られていました。

R2年8月初旬より発熱。施設内にて治療を行っていましたが症状の改善がみられず、発熱より4日後に肺炎の診断で入院。点滴及び酸素吸入、随時吸引が必要な状況となり、嚥下訓練等のリハビリを受けていましたが、経口摂取での栄養補給は困難な状態との診断となり、高カロリーの点滴にて栄養補給の継続と胃瘻造設について勧められました。また、療養病床への転院を勧められましたが、ご本人及びご家族は胃瘻造設を希望せず、延命よりもご本人が安心できるケアポート板橋へ戻りたいと強くご希望されました。

ご本人、ご家族の「ケアポートに帰りたい」との強い希望を叶える為、退院前カンファレンスへ特養相談員、看護主任は参加。お看取り前提での帰苑となること、対応時のリスク、特に経口摂取時の説明を現場と共有し、ご家族も含めた全職員でご本人を支えていくことを決定致しました。

9月初旬の退院日、経口摂取は困難な状況ではありましたが、管理栄養士及び介護主任の提案にて、昼食時にご本人の大好物である鰻をその場で焼き、香りを楽しんで頂きながらペースト状の鰻を数口、ご家族(奥様、娘様)の見守りのもとで召しあがって頂くことができました。

その後もご本人、ご家族の意向を伺いつつ食事の提供を続け、食事を摂る事が難しい日にはアイスキャンディーの味を選んで頂きながら、「最後まで口から食べる」というご本人、ご家族の気持ちに寄り添う事ができました。

ご逝去の前日、お好きな香りの入浴剤を選んで頂き、望まれていた浴槽に浸かる入浴を看護見守りのもと実現。言葉になりませんでした。深い呼吸と満面の笑顔で返して下さいました。翌日の9月中旬に、ご逝去となりましたが、ご家族より「やっぱりケアポートに帰ってきて良かった」と号泣の中、沢山の感謝の言葉を頂きました。

常時、医療介入が必要な身体状況であり、非常に誤嚥のリスクも高く、またご本人がしっかりと理解されているという点で精神面でのケアも重要な難しいケースではありましたが、特養部門の全専門職で連携を図りながら、チームで「ご本人、ご家族の望む最期」を叶えることのできたこの事例は、キラキラ介護賞に値する症例と考え推薦致します。